

移住してトマト農家に

中 在住 久保田さん (移住歴 6年)
取材 2015年 10月



中地区ってどんなところ？

○人口 1,549人 (580世帯) ※2015.10.1 現在
湧水に恵まれ、古代縄文の時代から、豊かで恵まれた地で水田や田畑を耕し、生活してきた先人達がいて、現在も稲作やいちご栽培、トマト栽培がさかんです。

そして、地域の人たちにとっては、子どものころ遊び場だった「葦山反射炉」が2015年7月世界遺産となり、観光客も増えています。

市立の葦山南小学校、共和幼稚園もあります。



移住のきっかけ

子どものころから自然に触れ合うこと、植物が好きで、大学では農学部で在籍しました。卒業後は、静岡市で会社員となりましたが、転勤で北海道に住んでいたこともあり。しかし、友だちは農家の息子が多く、彼らがいきいき生活しているのにあこがれ、夫婦で農業を始めようと決意しました。

全国で就農候補地を探していたのですが、「新・農業人フェア」に参加し、伊豆の国市では非農家出身の就農希望者を積極的に受け入れ、研修から独立まで県の事業によりサポートしてくれることを知り、2010年に移住しました。農業をやろうと決断してから、半年でした。

当初の住まいは、不動産屋でアパートを探しました。数年後には経営も安定し、家族も増えたため、知人の紹介で中古住宅を購入しました。



農業経営者として地域に

受入農家である師匠のもと、1年2カ月間の研修を経てミニトマト農家として独立しました。4年目くらいから、トマトがのびのびと育つ環境、自分のスタイルができ、手応えを感じ始めました。ミニトマト農家は、地域で密集しているので、独立後も困ったことがあれば情報交換でき、人的サポートがあるのがいいですね。

作物は、天候に左右されたり、病気などのトラブルもありますが、手間をかけるほど答えてくれます。出荷する瞬間はうれしいです。



伊豆の国市は、いちごと並んでミニトマトの一大産地となりました。
これにはニューファーマーの皆さんの存在が大きいです。



移住してよかったこと

自然をすぐそばで感じることができること。歩いて行ける場所に、ホテルの見られる場所や、カブト虫やクワガタをとることができる場所があることに驚きました。

そして家から2つの世界遺産（富士山と葦山反射炉）を見られることがよかったです。

移住して困ったこと・感じたこと

保育園や病院のロコミがなく、利用者の声を聞くことができなかつたので選択に悩みました。知り合いがいない土地では、ネットを活用してのロコミが役立つので、地元の人声がきけるサイトがあるといいと思いました。

住んでいる現在でも、施設に関するロコミが見られるサイトがあると便利だと感じます。

また、アパートに住んでいるときは感じませんでしたが、一戸建てに住むと地域とのつながりが強くなり、いろいろと助けてもらえるのは心強いです。昔からのしきたりや習わしがわからず、戸惑ってしまうこともあります。

移住を考えている人へ…

都会に比べると、店の数や規模は物足りないかもしれませんが、近所には暮らしていくには十分なスーパーもあり、電車やバスなどの公共交通機関があり、また車で少しが走れば大型スーパーもあるので、特段不便は感じません。

むしろ、自然豊かで静かな環境は、子育て世代や老後を過ごす方には最適な場所ではないかと感じます。

これからも素晴らしい自然環境を大切に、後世へ残していけるように暮らしていきたいです。



就農支援

静岡県では、他産業から農業を志す青年等を対象に、先進農家等で1年間、農業の生産技術や経営ノウハウを学んで独立就農を目指す「新規就農者養成研修」（がんばる新農業人支援事業）を実施しています。

伊豆の国市では、JA伊豆の国が「ニューファーマー地域連絡協会」を設立し、ミニトマト・イチゴの受入農家の皆さんと、研修生の受け入れ、就農支援、フォローアップなどを実施しています。



インタビュー後、トマトハウスに伺い、作業の様子を見学させていただきました。収穫やパック詰め作業をする人の中には、子どもが幼稚園や学校に行っている間に働いているママさんもいました。子どもの夏休み期間は作業もお休みになると伺い、育児しながら働くにはよい環境だと感じました。伊豆の国市のミニトマトおいしいですよ！ぜひ食べてみてください。

